

京都市地域コミュニティ活性化推進条例(平成23年11月11日京都市条例第17号)  
(文化市民局市民生活部地域づくり推進課)

本市における地域コミュニティ(注)の活性化の推進に関し、その基本理念を定め、並びに本市等及び事業者の責務並びに地域住民の役割を明らかにするとともに、地域コミュニティの活性化の推進に関する施策の基本となる事項を定めることにより、地域コミュニティの活性化を総合的かつ計画的に推進するため、この条例を制定することとしました。

注 本市の区域内における地域住民相互のつながりを基礎とする地域社会をいいます。  
主な内容は、次のとおりです。

## 1 基本理念(第3条)

次に掲げる事項を地域コミュニティの活性化の推進の基本理念とします。

- (1) 地域住民相互の交流を促進することにより地域住民が支え合う地域のつながりを強化するとともに、地域住民相互の協力と支え合いの精神に基づく自主的かつ活発な地域活動(注1)が行われるようにすること。
- (2) 地域自治を担う住民組織(注2)、事業者及び地域活動に関わる市民活動団体(ボランティア活動その他の公益的な活動を行うことを目的として市民が組織する団体をいう。)、大学、研究機関その他の団体並びに本市が相互に連携して取り組むこと。
- (3) 地域自治を担う住民組織が、地域住民の多様な価値観及び自主性を尊重しつつ、地域コミュニティの中心となって地域活動に取り組むことが大きな役割を担うことを旨とすること。

注1 良好な地域コミュニティの維持及び形成に資する活動をいいます。

2 地域の自治を担う団体で、次に掲げる要件を備えているものをいいます。

- (1) 地域活動に取り組むことを主たる目的とするものであること。
- (2) 自治会、町内会その他の地域住民が組織する団体により構成されるものであること。
- (3) おおむね小学校の通学区域(元学区を含む。)を単位とする地域において活動するものであること。
- (4) 多くの地域住民に支持されているものであること。

## 2 本市等の責務(第4条)

基本理念にのっとり、地域コミュニティの活性化の推進に関する施策を総合的に実施するとともに、地域コミュニティの活性化の推進に共に取り組む組織として、地域自治を担う住民組織を尊重し、地域住民の地域自治を担う住民組織への主体的な参加及び地域自治を担う住民組織の結成の促進に必要な支援を行うこととします。

また、本市の職員は、地域コミュニティの重要性を理解し、地域コミュニティの活性化の推進を図る指定に立ち、職務を遂行することとします。

### 3 事業者の責務（第5条）

地域コミュニティの重要性を理解し、事業所が所在する地域の地域活動に協力するよう努めるとともに、従業員がその居住する地域の地域活動に参加することに配慮するよう努め、地域コミュニティの活性化の推進に関する本市の施策に協力するよう努めることとします。

### 4 地域住民の役割（第6条）

地域コミュニティの重要性を理解し、地域活動に積極的に参加、協力することにより、地域コミュニティ活性化の推進についての役割を果たすとともに、地域自治を担う住民組織に多くの地域住民が主体的に参加する状況を目指し、地域住民相互の交流、協働についての役割を果たすものとします。

### 5 財政上の措置（第7条）

本市は、地域コミュニティ活性化の推進に関する施策を実施するために必要な財政上の措置を講じるよう努めることとします。

### 6 計画（第8条）

市長は、地域コミュニティの活性化の推進に関する計画を定めることとします。

### 7 地域コミュニティの活性化の総合的推進のための施策（第9条から第12条まで）

次に掲げる事項を地域コミュニティの活性化の総合的推進のための本市の施策とします。

- (1) 地域コミュニティの活性化に関する相談に対する情報の提供、助言、当該相談に係る関係者相互間の意見の調整その他必要な措置
- (2) 地域自治を担う住民組織及び地域自治を担う住民組織を結成しようとする団体に対する、地域活動の企画及び運営、地域自治を担う住民組織の結成その他の取組に助言を行う専門家の派遣
- (3) 地域住民、本市に転入しようとする者及び事業者が地域コミュニティの活性化の

推進に関する理解を深めるために必要な措置

(4) 地域コミュニティの活性化の推進に関し、功績があった事業者の顕彰

8 住宅の建築、販売等をする事業者等による地域コミュニティの活性化の推進のための取組（第13条から第16条まで）

(1) 住宅の販売若しくは賃貸又はこれらの代理若しくは媒介（以下「販売等」という。）をする事業者は、住宅を購入し、又は賃借しようとする者に対して、地域自治を担う住民組織の活動等に関する情報の提供に努めることとします。

(2) 次に掲げる事業者は、共同住宅の居住者相互及び共同住宅の居住者と地域住民との交流の促進を図るために必要な措置を講じるよう努めることとします。

なお、一団の土地を分割して建築する住宅のア、イの事業者も同様とします。

ア 共同住宅を建築する事業者

イ 共同住宅の販売等をする事業者

ウ 共同住宅を管理する事業者

(3) 共同住宅を新築する者は、新築工事、販売、賃貸及び管理をする事業者の連絡調整担当者を市長に届け出ることとします。また、市長は、地域自治を担う住民組織からの請求により、当該連絡調整担当者に係る情報を開示することとします。

9 審議会の設置（第17条から第19条まで）

地域コミュニティ活性化推進審議会を設置することとします。

この条例は、平成24年4月1日から施行することとしました。ただし、次に掲げる措置は、それぞれ次に定める日から施行することとしました。

1 9の措置 この条例の公布の日から起算して4月を超えない範囲内において市規則で定める日

2 8(3)の措置 平成24年7月1日

8(3)の措置は、平成24年7月1日以後に、次に掲げる共同住宅の区分に応じ、それぞれ次に掲げる行為がなされた共同住宅について適用することとします。

1 特定共同住宅 京都市中高層建築物等の建築等に係る住環境の保全及び形成に関する条例第11条第1項の規定による標識の設置

2 特定共同住宅以外の共同住宅 建築基準法第6条第1項若しくは第6条の2第1項の規定による確認の申請又は同法第18条第2項の規定による通知

京都市地域コミュニティ活性化推進条例を公布する。

平成23年11月11日

京都市長 門川大作

京都市条例第17号

京都市地域コミュニティ活性化推進条例

目次

前文

第1章 総則（第1条～第7条）

第2章 地域コミュニティの活性化の推進に関する基本的施策

第1節 地域コミュニティ活性化推進計画（第8条）

第2節 地域コミュニティの活性化の総合的推進のための施策（第9条～第12条）

第3節 住宅の建築、販売等をする事業者等による地域コミュニティの活性化の推進  
のための取組（第13条～第16条）

第3章 地域コミュニティ活性化推進審議会（第17条～第19条）

第4章 雑則（第20条）

附則

ここ京都では、長い歴史の中で培われた住民自治の伝統や支え合いの精神に基づき、自治会、町内会その他の地域住民の組織する団体が中心となり、地域コミュニティが形成され、これらの団体の活動が京都の発展に大きく寄与してきた。

しかしながら、近年、居住形態や生活様式の変化に伴い、自治会、町内会その他の地域住民の組織する団体に加入する住民の割合が低下し、及び地域活動に参加する地域住民が減少したことにより、地域住民相互のつながりが希薄になり、子育てや高齢者の生活の支援、災害時の被害の軽減その他の地域社会において生活するうえで重要な課題を解決するために必要な地域コミュニティの活力が低下することが危惧されている。

このような状況において、東日本大震災が発生し、地域コミュニティの重要性への認識がより深まる中、良好な地域コミュニティを維持し、及び形成していくためには、地域住民相互の交流を促進することにより地域住民が支え合う地域のつながりを強化するとともに、地域住民相互の協力と支え合いの精神に基づく自主的かつ活発な地域活動が行われる必要がある。

ここに、本市は、地域自治を担う住民組織、事業者等との連携の下に、地域住民が行う

地域活動を支援し、地域コミュニティの活性化を推進することにより、将来にわたって、地域住民が支え合い、安心して快適に暮らすことができる地域コミュニティを実現することを決意し、この条例を制定する。

## 第1章 総則

### (目的)

第1条 この条例は、地域コミュニティの活性化の推進に関し、その基本理念を定め、並びに本市等及び事業者の責務並びに地域住民の役割を明らかにするとともに、地域コミュニティの活性化の推進に関する施策の基本となる事項を定めることにより、地域コミュニティの活性化を総合的かつ計画的に推進することを目的とする。

### (定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 地域コミュニティ 本市の区域内における地域住民相互のつながりを基礎とする地域社会をいう。
- (2) 地域活動 良好な地域コミュニティの維持及び形成に資する活動をいう。
- (3) 地域自治を担う住民組織 地域の自治を担う団体で、次に掲げる要件を備えているものをいう。
  - ア 地域活動に取り組むことを主たる目的とするものであること。
  - イ 自治会、町内会その他の地域住民が組織する団体により構成されるものであること。
  - ウ おおむね小学校の通学区域（元学区を含む。）を単位とする地域において活動するものであること。
  - エ 多くの地域住民に支持されているものであること。

### (基本理念)

第3条 地域コミュニティの活性化の推進は、次に掲げる事項を基本理念として行われなければならない。

- (1) 地域住民相互の交流を促進することにより地域住民が支え合う地域のつながりを強化するとともに、地域住民相互の協力と支え合いの精神に基づく自主的かつ活発な地域活動が行われるようにすること。
- (2) 地域自治を担う住民組織、事業者及び地域活動に関わる市民活動団体（ボランティ

ア活動その他の公益的な活動を行うことを目的として市民が組織する団体をいう。),  
大学, 研究機関その他の団体並びに本市が相互に連携して取り組むこと。

- (3) 地域自治を担う住民組織が, 地域住民の多様な価値観及び自主性を尊重しつつ, 地域コミュニティの中心となって地域活動に取り組むことが大きな役割を担うことを旨とすること。

(本市等の責務)

第4条 本市は, 基本理念にのっとり, 地域コミュニティの活性化の推進に関する施策を総合的に策定し, 及び実施しなければならない。

- 2 本市は, 地域コミュニティの活性化の推進に共に取り組む組織として, 地域自治を担う住民組織を尊重しなければならない。
- 3 本市は, 地域住民が地域自治を担う住民組織に主体的に参加し, 及び地域自治を担う住民組織を結成することを促進するために必要な支援を行わなければならない。
- 4 本市の職員は, 地域コミュニティの重要性を理解し, 地域コミュニティの活性化の推進を図る視点に立ち, その職務を遂行しなければならない。

(事業者の責務)

第5条 事業者は, 地域コミュニティの重要性を理解し, その事業所が所在する地域において行われる地域活動に協力するよう努めなければならない。

- 2 事業者は, 従業員がその居住する地域において地域活動に参加することに配慮するよう努めなければならない。
- 3 事業者は, 地域コミュニティの活性化の推進に関する本市の施策に協力するよう努めなければならない。

(地域住民の役割)

第6条 地域住民は, 地域コミュニティの重要性を理解し, 地域活動に積極的に参加し, 及び協力することにより, 地域コミュニティの活性化の推進についての役割を果たすものとする。

- 2 地域住民は, 地域自治を担う住民組織に多くの地域住民が主体的に参加する状況となることを目指し, 地域住民相互の交流及び協働についての役割を果たすものとする。

(財政上の措置)

第7条 本市は, 地域コミュニティの活性化の推進に関する施策を実施するために必要な財政上の措置を講じるよう努めなければならない。

## 第2章 地域コミュニティの活性化の推進に関する基本的施策

### 第1節 地域コミュニティ活性化推進計画

第8条 市長は、地域コミュニティの活性化の推進に関する施策を総合的かつ計画的に実施するため、地域コミュニティの活性化の推進に関する計画（以下「地域コミュニティ活性化推進計画」という。）を定めなければならない。

2 地域コミュニティ活性化推進計画は、次に掲げる事項について定めるものとする。

- (1) 地域コミュニティの活性化の推進に関する目標
- (2) 地域コミュニティの活性化の推進に関する取組
- (3) その他地域コミュニティの活性化の推進に関する施策を総合的かつ計画的に実施するために必要な事項

3 市長は、地域コミュニティ活性化推進計画を定めるに当たっては、第17条に規定する審議会の意見を聴くとともに、事業者及び地域住民の意見を適切に反映するために必要な措置を講じなければならない。

4 市長は、地域コミュニティ活性化推進計画を定めたときは、速やかにこれを公表しなければならない。

5 前2項の規定は、地域コミュニティ活性化推進計画の変更について準用する。

### 第2節 地域コミュニティの活性化の総合的推進のための施策

（地域コミュニティの活性化に関する情報の提供等）

第9条 本市は、地域コミュニティの活性化に関する相談に応じ、情報の提供、助言、当該相談に係る関係者相互間の意見の調整その他必要な措置を講じなければならない。

（地域自治を担う住民組織等への専門家の派遣）

第10条 市長は、地域自治を担う住民組織及び地域自治を担う住民組織を結成しようとする団体の求めに応じ、地域活動の企画及び運営、地域自治を担う住民組織の結成その他の取組のために必要があると認めるときは、これらの団体に対して助言を行う専門家を派遣するものとする。

（地域コミュニティの活性化の推進に関する理解を深めるための措置）

第11条 本市は、地域住民、本市に転入しようとする者及び事業者が地域コミュニティの活性化の推進に関する理解を深めるため、広報活動、啓発活動その他の必要な措置を講じなければならない。

（顕彰）

第12条 市長は、地域コミュニティの活性化の推進に関し、功績があった事業者の顕彰に努めるものとする。

第3節 住宅の建築、販売等をする事業者等による地域コミュニティの活性化の推進のための取組

(地域自治を担う住民組織の活動等に関する情報の提供)

第13条 住宅の販売若しくは賃貸又はこれらの代理若しくは媒介（以下「販売等」という。）をする事業者は、住宅を購入し、又は賃借しようとする者に対し、宅地建物取引業法第35条第1項各号に掲げる事項の説明その他当該住宅についての説明を行う際に、当該住宅の存する地域において活動する地域自治を担う住民組織の活動に関する情報その他当該地域の地域活動に関する情報を提供するよう努めなければならない。

(共同住宅等の居住者の交流の促進)

第14条 次に掲げる事業者は、共同住宅の居住者相互の交流及び共同住宅の居住者と地域住民との交流の促進を図るため、地域活動に関する情報を掲示するための掲示板の設置その他の必要な措置を講じるよう努めなければならない。

- (1) 共同住宅を建築する事業者
- (2) 共同住宅の販売等をする事業者
- (3) 共同住宅を管理する事業者

2 前項の規定は、一団の土地を分割して建築する住宅の居住者の交流の促進について準用する。この場合において、同項中「次」とあるのは「第1号及び第2号」と、「共同住宅」とあるのは「一団の土地を分割して建築する住宅」と読み替えるものとする。

(共同住宅の新築工事等をする事業者の連絡調整担当者の届出)

第15条 特定共同住宅（京都市中高層建築物等の建築等に係る住環境の保全及び形成に関する条例第2条第2項第3号に規定する特定共同住宅をいう。以下同じ。）を新築する者は、建築基準法第6条第1項若しくは第6条の2第1項の規定による確認の申請又は同法第18条第2項の規定による通知をしようとする日の20日前までに、当該特定共同住宅の新築工事、販売、賃貸及び管理をする事業者に対し、それぞれ連絡調整担当者（共同住宅の居住者と地域住民との交流を促進するために必要な事項について、地域自治を担う住民組織との連絡及び調整を行う者をいう。以下同じ。）を選任させるとともに、連絡調整担当者の氏名及び連絡先その他別に定める事項を市長に届け出なければならない。



- 2 地域自治を担う住民組織は、その活動を行う地域に新築される特定共同住宅以外の共同住宅について、その新築工事が完了した日から起算して30日を経過する日までの間に、新築工事、販売、賃貸及び管理をする事業者の連絡調整担当者の氏名及び連絡先その他別に定める事項に係る情報の提供を受けたい旨を市長に申し出ることができる。
- 3 第1項の規定は、前項の申出に係る共同住宅のうち、地域コミュニティの活性化を推進するために同項の情報の提供をする必要があると市長が認めるものを新築する者について準用する。この場合において、第1項中「建築基準法第6条第1項若しくは第6条の2第1項の規定による確認の申請又は同法第18条第2項の規定による通知をしようとする日の20日前までに」とあるのは、「第5項の通知を受けた日の翌日から起算して15日以内に」と読み替えるものとする。
- 4 前項の認定は、当該共同住宅の新築工事が完了した日から起算して40日を経過する日までに限り行うことができるものとする。
- 5 市長は、第3項の規定による認定をしたときは、速やかにその旨を当該共同住宅を新築する者に通知しなければならない。

(共同住宅の新築工事等をする事業者の連絡調整担当者に係る情報の提供)

第16条 地域自治を担う住民組織は、その活動を行う地域に新築される共同住宅に関して前条第1項の規定により届出があった事項について、文書により開示を請求することができる。

- 2 市長は、前項の請求があったときは、当該請求をした地域自治を担う住民組織に対し、文書により当該請求に係る事項について開示をしなければならない。
- 3 市長は、前条第3項において準用する同条第1項の規定による届出があったときは、同条第2項の規定による申出をした地域自治を担う住民組織に対し、文書により当該届出に係る事項について開示をしなければならない。
- 4 前2項の規定による開示を受けた地域自治を担う住民組織は、当該開示を受けた事項を、共同住宅の居住者と地域住民との交流を促進する目的以外の目的に使用してはならない。

### 第3章 地域コミュニティ活性化推進審議会

(審議会)

第17条 地域コミュニティの活性化の推進に関する事項について、市長の諮問に応じ、調査し、及び審議するとともに、当該事項について市長に対し、意見を述べるため、京

都市地域コミュニティ活性化推進審議会（以下「審議会」という。）を置く。

（審議会の組織）

第18条 審議会は、委員15人以内をもって組織する。

2 委員は、学識経験のある者その他市長が適当と認める者のうちから、市長が委嘱し、又は任命する。

（委員の任期）

第19条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

#### 第4章 雑則

（委任）

第20条 この条例において別に定めることとされている事項及びこの条例の施行に関し必要な事項は、市長が定める。

#### 附 則

（施行期日）

1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

(1) 第3章及び次項の規定 公布の日から起算して4月を超えない範囲内において市規則で定める日

(2) 第15条、第16条及び附則第3項の規定 平成24年7月1日

（準備行為）

2 この条例の規定による審議会の意見の聴取は、この条例の施行前においても、行うことができる。

（経過措置）

3 第15条及び第16条の規定は、平成24年7月1日以後に、次の各号に掲げる共同住宅の区分に応じ、当該各号に掲げる行為がなされた共同住宅について適用する。

(1) 特定共同住宅 京都市中高層建築物等の建築等に係る住環境の保全及び形成に関する条例第11条第1項の規定による標識の設置

(2) 特定共同住宅以外の共同住宅 建築基準法第6条第1項若しくは第6条の2第1項の規定による確認の申請又は同法第18条第2項の規定による通知

（文化市民局市民生活部地域づくり推進課）